

ミナミハンドウイルカはいつ頃子どもを産んでいるの？ ～胎児線からわかること～

先月、ホエールウォッチング協会（OWA）の事務所に一本の電話がありました。「7月16日に南島の西側で出産中のミナミハンドウイルカを見たよ」という連絡です。目撃した方の話によると、なんと、母親イルカのお腹から赤ちゃんイルカの尾びれが出ているのが見えたとのこと。このような情報は、小笠原のミナミハンドウイルカの繁殖生態を明らかにする上できわめて貴重であるため、大変ありがたいものとなります。

さて、出産の目撃情報があったのが7月16日とのことでしたが、小笠原のミナミハンドウイルカが子どもを産むのはいつ頃なのでしょう。今回のケースのように、毎回出産シーンを観察できれば、それに敵う情報はありません。しかし、このようなことはめったにありません。そこで、子どものイルカに注目します。子どものイルカの体の

横側には、生まれてから一ヶ月ほどの間、「胎児線」と呼ばれる数本のしわが見られます（図1）。この胎児線を確認することで、その個体が生まれたばかりの赤ちゃんイルカであることがわかります。

OWAでは一年を通してイルカの個体識別調査を行っており、2003年から蓄積されたデータをまとめると5月から12月にかけての期間にのみ、胎児線のある赤ちゃんイルカが観察されています（図2）。ゆえに、ミナミハンドウイルカの出産時期はこの期間だろうと推測することができます。今回出産の目撃情報があった日も、これまでの記録とマッチしますね。

これからの季節、赤ちゃんイルカを見かけることが多くなります。そんな時は、これから元気に育ってくれるように温かく見守ってあげてくださいね。



図1. 胎児線のある赤ちゃんイルカ
丸で囲った中にうっすらと見えるのが胎児線。

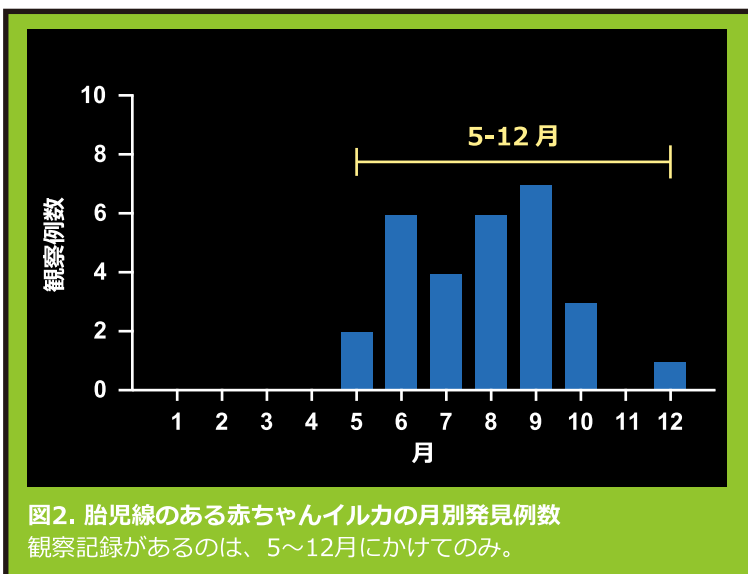


図2. 胎児線のある赤ちゃんイルカの月別発見例数
観察記録があるのは、5～12月にかけてのみ。

2018

OWA夏のナイトレクチャー

「もっと知りたい！小笠原のイルカ・クジラ」

【日時】8月2日、9日、14日（19:30～20:30）

【場所】小笠原ビジターセンター新館
レクチャールーム

【費用】300円（資料代として）

※OWA会員・島民無料（対象：中学生以上）

小笠原の海で暮らすイルカやクジラのことをお勉強してみませんか？ナイトレクチャーでは、イルカ・クジラの生態を幅広くご紹介します。

イルカ・クジラツアー参加の前に！振り返りに！



予約
不要